

令和7年度松本市保健所運営協議会 議事要旨

1 日時

令和7年11月6日（木） 午後1時30分から3時まで

2 会場

松本市役所本庁舎3階 大会議室

3 出席者

(1) 委員

野見山委員、小林委員、山崎委員、田多井委員、永瀬委員、高遠委員、横井委員

(2) 代理出席者

東條委員代理：長野県獣医師会松筑支部副支部長 大和 真一氏

二村委員代理：松本広域消防局警防課 係長 東村 美香氏

染川委員代理：松本市校長会中山小学校長 宮田 恭子氏

(3) 欠席

村山委員

(4) 理事者

小松保健所長、百瀬保健予防課長、久保田食品・生活衛生課長、神田健康づくり課長、横内健康づくり課長、加藤健康づくり課長、田中保健総務課長代理宮本課長補佐

4 会議次第

(1) 開会（宮本課長補佐）

(2) 所長あいさつ（小松所長）

- ・保健所設置後3年間は新型コロナ中心の業務となっしまい、保健所本来の業務の取組みはこの4月からと思っている。
- ・市の保健所ということで保健所自体の行っている「健康を守る」というところに、市町村基礎自治体の行う「健康をつくる」というものを融合した形で進めてきているが、まだまだ途中であると思っている。
- ・コロナ予防接種がB類の定期接種となったが、昨年度死者数がインフルエンザの1.5倍ということでいくと、まだまだ一般の風邪という形ではなく、特に高齢者の方の負荷がまだある状況。
- ・皆様のご意見を今後の施策に生かしていきたいと考えているので、忌憚のない建設的なご意見をいただきたい。

(3) 委員の紹介（宮本課長補佐）

(4) 会長あいさつ（小林会長）

- ・今年6月に医師会長になり、本日の運営協議会は私も初めて参加するが、お引き受けして進行していきたい。
- ・次第で「資料配布のみ」となっている事項についても、理事者から概要の説明を求めたい。

(5) 会議事項（理事者側から説明）

ア 保健総務課

第2段階の保健所設置に向けた取組みについて（宮本課長補佐）

イ 健康づくり課

健康づくり課事業概要及び令和7年度の取組みについて（神田課長）

ウ 保健予防課

感染症発生時における移送訓練等の実施予定について（百瀬課長）

エ 食品・生活衛生課

動物愛護管理施策の推進に係る寄附金の募集（久保田課長）

5 意見交換

（田多井委員）

- ・第2段階の保健所に動物愛護センター出来るが、熊等の有害鳥獣について、また被害が起きないように発信する考えはあるか。
- ・喫煙者が減っているが、受動喫煙による影響は野外喫煙もその原因のひとつと考えられる。乳幼児に影響が出てしまうこともある。
- ・「松本市受動喫煙防止に関する条例」があり、喫煙所を作って終わりではない。喫煙所で吸ってもらうための対策や啓発はどのようにされているか。
- ・感染症対策委員会にも出てお伝えしているが、大事な時に抗生物質が無くなる。薬局では探すしかないが、ガソリン代や郵送料がかかるため、補助金等を検討してほしい。

（久保田課長）

- ・市保健所での対象動物は愛玩のみとしている。危険な動物を愛護動物として飼育している飼い主への指導はする。野生動物は管轄外。
- ・医薬品の補助については、ご要望を承る。

（神田課長）

- ・屋外喫煙はご指摘のとおり。松本駅、松本城公園、体育館に野外喫煙所が設置されている。啓発活動は、松本駅と松本城とでそれぞれ2回実施した。松本城は多言語を用いて啓発した。

（野見山委員）

- ・保健所設置について、建設費は35億円がかかる。保健所の役割を市民が活動内容を知っているか、知ってもらったうえで病院含めて医療・福祉は大切なので、反対派の人々にも理解してもらい、納得してもらおうように努めて欲しい。丁寧な説明をして第2段階の保健所を作ってほしい。
- ・NearlyZEBで75パーセントのエネルギー削減が本当にできるのか疑問である。できない数字ではなく、できる数字をあげてはいかがだろうか。
- ・フレイル予防について、チェックや検診をしているが市民にわかりやすく周知をした方が良い。1,200人調査して10パーセントにフレイルの人がいたが、基本的に健康な方が受けていると推測されるため、幅広い調査が必要だと思う。家の中にいる閉じこもり傾向の人が漏れてしまい、健康診断を受けていないような、本来必要な人に情報が届いていないと推測さ

れる。フレイル予防は、75歳以上になってからではなく、若年層からが重要で、全市民に周知できるようにすることが必要だ。

- ・保健所庁舎整備基本計画中、保健師が36人では少ない。健康診断フォローアップが42パーセントと低く、これを適切な人員で業務適正化を進める必要がある。予算が足りないとかではなく、適正な数字を示した方が良い。
- ・社会的弱者が健康診断や介護認定申請をしていないのではないかと懸念している。介護保険料が高くなるのは仕方がないと思う。手が及んでいないのか、相談しにくいのか、という印象がある。

(小松所長)

- ・保健所業務は、必要な手続き等があった場合来てもらうが、それが一番知ってもらうことにつながる。第2段階の保健所は、保健所機能だけではなく、市民の窓口としての役割もある。そういう意味で、今後理解してもらうチャンスであり、知ってもらう良いタイミングでもある。
- ・保健師については、保健所全体で総勢55名の体制である。

(横内健康づくり課課長)

- ・フレイル健診は、後期高齢者検診の44パーセントが活用してフレイル者は拾い上げられる算段である。フレイル対策は、若いうちから必要なことは存じ上げている。SNSで周知は図っている。特定検診や一般企業とも連携しながら実施予定。
- ・特定検診受診率は、1年目の国保加入者に確実に受診してもらうよう、脱落しないよう対策を取っている。地区保健師が個別訪問をしている状況で足を使っている。

(山崎委員)

- ・保健所建設で保健所のイメージが悪くならないよう、丁寧な説明が必要だと思う。
- ・これまで口腔がん検診は健康づくり課と連携していたが、令和6年度から市の事業として開始している。歯科医師会会員外の歯科医院ではできないが、直接歯科医院に問い合わせれば検診できるか分かるため、周知してほしい。
- ・歯科医師会でも後期高齢者健診をしている。フレイルチェックで嚥下、舌、筋力低下、かみ合わせをチェックしてアドバイスや治療の説明をしている。全身のフレイルに結びつかないように活動している。

(永瀬委員)

- ・松本市では、アニサキスによる健康被害は、食中毒であるが公表されないのか、食中毒としてカウントされないのか、どちらなのか。
- ・新保健所内に当協会の事務所ができると、活動場所が合同庁舎内と合わせて2つになる。その場合は、うまく連携していきたい。講習会は飲食、製造、販売で順に実施しており、今年は製造関係の講習会を実施した。食品事故は起こしてはいけない、ということをお話していきたいが保健所の皆さんのおかげで事故件数はゼロ。
- ・クラウドファンディングは、目標はいくらで、何年くらい続くのか。

(久保田食品・生活衛生課長)

- ・アニサキス食中毒については、県と同じ基準で必要な措置や指導等を行っている。

- ・クラウドファンディングは、目標は300万円で、現在38万8千円集まった。市ホームページでも広く周知している。昨年度は200万円集まった。

(大和氏)

- ・獣医師会は災害対策の取り組みとして、第3回ペットの災害対策研修会を実施予定で、動物がいることによって避難をためらってはいけないということで研修を実施したい。松塩筑飼犬管理対策協議会と共催で11月9日にあずき会館で実施する。医療救護訓練の動物版のような感じ。
- ・「ワンヘルス」…動物・人・環境を人畜共通感染症の対策が必要と考えている。SFTS（重症熱性血小板減少症候群）はダニが媒介し、対応する薬がなく対処療法のみで致死率高い。人と動物がともに健康で暮らしていける松本市の役に立ちたいと思っている。

(高頭委員)

- ・若年層へ受診勧奨のアプローチをしているとのことだが、工夫点を知りたい。看護協会でも周知に苦勞している。
- ・次年度は認知症対策等も共同して実施していけたらと思う。

(横内健康づくり課課長)

- ・国民健康保険では、はがきで勧奨している。企業と連携もしている。

(東村氏)

- ・救急の出動状況は、令和6年1月から12月で21,528件の出動、20,115人の搬送、令和7年10月末現在は、17,872件の出動がある。

(横井委員)

- ・自殺予防のステッカーを配布している。
- ・SNS上で自殺というつぶやきがあると警察で対応することがある。松本市での対応件数はどのくらいか。相談回線数や夜間対応も教えてほしい。

(加藤健康づくり課課長)

- ・電話相談は松本市自殺予防専用相談「いのちのきずな松本」を1回線に対応している。つながらなかったという苦情には接していない。夜間も「よりそいホットライン等」に電話をかけられている。周知は、検索連動型広告を活用しているため相談は増えている。

(宮田氏)

- ・第2段階の保健所の庁舎のコンセプトは良い。
- ・保健所における相談は、相談内容のすみ分けはしているか。
- ・学校からすると保健所は遠い存在であるが、自殺予防の対策、大学・高校・専門学校だけではなく、将来のメンタルヘルスにつながっていくので、保健所と連携すると良いかと思う。
- ・「松本 Soy メンチ」は学校給食で出るが、子供たちだけのものになっている感じ。市民フードとして発展していくと良いと思った。

(小松所長)

- ・保健所における相談窓口は分けている。内容を聞いて振り分けしている。

(加藤健康づくり課課長)

- ・自殺対策については、毎年4月に保健師が出前調査をしている。
- ・「松本 Soy メンチ」は、管理栄養士が動画で食育情報を広報している。市民フードとしての発展については、課内で共有する。

(小林会長)

- ・設置費が35億円弱となることは、丁寧に理由を説明し、何をやっているか、啓発等は必要と思われる。市民に親しみやすい保健所を目指してほしい。
- ・健康づくりの面では、「フレイル」は徐々に認知されてきている。しかし、後期高齢者健診やフレイル健診を通じ運動等を進めても、本人が「いいです」と断ってしまう。医療機関を通してだけでなく、地域住民の方と接する現場が多い地域包括支援センター等も通して啓発活動を行ってほしい。

6 閉会